



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月26日

上場取引所 東

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 鈴木 篤

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員

(氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	680,598	△1.4	17,135	△7.1	16,634	△11.2	14,446	△3.3
28年3月期第3四半期	690,231	10.9	18,444	14.5	18,730	14.6	14,933	19.6

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 17,615百万円 (42.0%) 28年3月期第3四半期 12,404百万円 (△40.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	117.05	116.47
28年3月期第3四半期	121.08	120.50

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	655,265		265,572			40.4
28年3月期	597,041		252,587			42.1

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 264,628百万円 28年3月期 251,554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	17.50	—	17.50	35.00
29年3月期	—	20.00	—		
29年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	902,000	△1.5	22,200	△6.8	20,500	△11.1	14,100	0.3	114.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 - 社(社名) - 、除外 - 社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期連結会計期間より、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を適用しております。詳細は、添付資料P. 5「2. (4) 追加情報」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	125,201,396 株	28年3月期	125,201,396 株
29年3月期3Q	1,752,551 株	28年3月期	1,819,577 株
29年3月期3Q	123,419,424 株	28年3月期3Q	123,340,849 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	13
(1) 株式会社阪急阪神百貨店の業績について	13
(2) イズミヤ株式会社の業績について	14
(3) 株式会社阪急オアシスの業績について	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「スーパーマーケット事業」、「イズミヤ事業」、「その他事業」の4区分から、「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」、「その他事業」の4区分に変更しております。

なお、前年実績につきましては、変更後の報告セグメント区分により作成することは実務上困難であります。したがって、セグメント区分に変更がない百貨店事業セグメントを除くセグメントについては、前年同期比の記載をしておりません。

各セグメントの概況は次のとおりです。

①百貨店事業

阪急うめだ本店では、2012年11月のグランドオープン以降初めての大規模改装を行い、2016年3月に3階・4階、9月には5階・6階の婦人ファッション売場をリニューアルオープンしました。従来の「年齢」から「趣向性」を軸に売場を再構築し、ブランドを超えた新しい価値の提供に取り組み、ファッション感度の高いお客様に支持されております。また、国内の新規顧客や訪日外国人の増加により、化粧品やハンドバッグを中心に婦人服飾品が好調に推移しました。しかしながら、全館での免税売上高は客単価の減少に伴い前年実績を下回ったことにより、阪急メンズ大阪を含めた阪急本店の売上高は163,298百万円、前年同期比99.8%となりました。

阪神梅田本店では、定評のある食品や婦人服飾品は堅調に推移しましたが、建て替え工事の影響に伴い客数が減少し、衣料品や家庭用品の売上が伸び悩んだ結果、売上高は41,651百万円、前年同期比94.1%となりました。

以上の結果、支店を含めた百貨店事業全体の売上高は317,342百万円、前年同期比98.4%、営業利益は11,727百万円、前年同期比は95.8%となりました。

《百貨店事業の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	317,342	98.4
営業利益	11,727	95.8

②食品事業

イズミヤ株式会社では、SM店舗の食品プロトタイプへの転換や、食料品売場を中心としたGMS店舗の改装を8店舗で実施し、既存店舗の営業力強化を推し進めるとともに、販促施策や業務委託契約の見直しなど、様々なコスト削減への取り組みも続けてまいりました。

また、株式会社阪急オアシスでは、「みんなで創るあなたの市場」をスローガンに掲げ、当期も大阪府内に3店舗、京都府内に1店舗を出店するなど、順調に事業規模を拡大しております。

食品製造会社におきましては、2016年10月1日にて、株式会社阪急デリカと株式会社デリカ・アイフーズを合併しました。株式会社阪急デリカアイに商号を変更し、イズミヤや阪急オアシスなどの屋号を越えて製品を供給することにより、更なる効率化と店舗の営業力強化を推進するとともに、グループ外への販路拡大にも積極的に取り組んでおります。

以上の結果、食品事業全体の業績は以下の通りとなりました。

《食品事業の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	315,714	—
営業利益	4,027	—

③不動産事業

2016年7月1日にて、従来のイズミヤ株式会社を再編し、グループの保有資産の有効活用を推進するため、不動産の管理・開発を行う株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントが新たにスタートいたしました。当期におきましては、イズミヤ店舗の建て替えや改装に向けて、再編計画の策定に取り組んでおります。

既存のグループ会社におきましては、ビルメンテナンスを行う株式会社阪急メンテナンスサービスがコスト削減による経営効率の改善に取り組み、増益となりました。

以上の結果、不動産事業全体の業績は以下の通りとなりました。

《不動産事業の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	7,235	—
営業利益	3,504	—

④その他事業

株式会社大井開発では、運営する「阪急大井町ガーデン」のホテル部門におきまして、前年度に引き続き国内客を中心に高い客室稼働率を維持し、増益となりました。

専門小売店業態におきましては、株式会社エフ・ジー・ジェイや株式会社阪急B&Cプランニング、株式会社ハートダイニングが新規出店などにより、順調に事業規模を拡大しております。

株式会社ペルソナでは、2016年1月に発行した「ソレーナSTACIAカード」におきまして、当初の想定を上回るペースで会員数が増加しております。

以上の結果、その他事業全体の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	40,305	—
営業利益	2,617	—

以上の結果、当期における連結売上高は680,598百万円、前年同期比98.6%、営業利益は17,135百万円、前年同期比92.9%となりました。また、為替予約評価損256百万円を営業外費用に計上したことなどにより、経常利益は16,634百万円、前年同期比88.8%となりました。また、イズミヤのGMS店舗や堺 北花田阪急を中心に店舗等閉鎖損失として1,990百万円を計上しましたが、土地売却益として4,291百万円を特別利益に計上したことに加えて、繰延税金資産の計上額が増加したこともあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、14,446百万円、前年同期比は96.7%となりました。

《連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	680,598	98.6
営業利益	17,135	92.9
経常利益	16,634	88.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,446	96.7

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は655,265百万円となり、前連結会計年度末に比べ58,223百万円増加しました。これは、新規借入により現金及び預金が23,477百万円、季節要因により受取手形及び売掛金が11,351百万円、土地が10,206百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

負債合計は389,692百万円となり、前連結会計年度末から45,238百万円増加しました。これは、季節要因により支払手形及び買掛金が16,526百万円増加したこと、新規借入により長期借入金が20,383百万円増加したことなどによるものです。

また、純資産は265,572百万円と前連結会計年度末から12,985百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益14,446百万円の計上と配当金の支払い4,628百万円により、利益剰余金が9,818百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は40.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期の連結業績はほぼ想定通り推移しており、通期の業績予想については、平成28年10月26日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社エイチ・ツー・オー 食品グループ及び株式会社エイチ・ツー・オー スマイルを連結の範囲に含めております。また、第2四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社阪急フードプロセス及び従来のイズミヤ株式会社(株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントに商号変更)を分割会社とする新設分割により設立したイズミヤ株式会社を連結の範囲に含めております。

第1四半期連結会計期間より、株式会社阪神みどり会は株式会社阪急友の会(株式会社阪急阪神百貨店友の会に商号変更)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社デリカ・アイフーズは、株式会社阪急デリカ(株式会社阪急デリカアイに商号変更)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	48,521	71,998
受取手形及び売掛金	46,785	58,137
商品及び製品	33,959	37,437
仕掛品	186	250
原材料及び貯蔵品	1,361	1,417
繰延税金資産	4,910	4,293
未収入金	4,710	4,951
その他	5,949	7,429
貸倒引当金	△814	△398
流動資産合計	145,570	185,517
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	113,755	110,922
機械装置及び運搬具（純額）	3,625	3,927
土地	124,341	134,547
建設仮勘定	834	322
その他（純額）	10,904	10,889
有形固定資産合計	253,461	260,609
無形固定資産		
のれん	5,997	5,537
その他	11,733	12,050
無形固定資産合計	17,730	17,588
投資その他の資産		
投資有価証券	97,513	107,120
長期貸付金	3,993	3,876
差入保証金	71,191	69,361
繰延税金資産	8,945	11,623
その他	1,868	2,600
貸倒引当金	△3,232	△3,032
投資その他の資産合計	180,279	191,550
固定資産合計	451,471	469,748
資産合計	597,041	655,265

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	62,235	78,762
1年内償還予定の社債	2,100	6,600
1年内返済予定の長期借入金	10,077	12,211
未払金	13,671	13,714
リース債務	963	699
未払法人税等	5,807	2,663
繰延税金負債	0	0
商品券	21,785	23,941
賞与引当金	5,048	2,607
役員賞与引当金	148	120
店舗等閉鎖損失引当金	295	257
ポイント引当金	2,097	2,433
資産除去債務	383	948
その他	32,610	38,572
流動負債合計	157,225	183,532
固定負債		
社債	16,600	12,000
長期借入金	100,879	121,262
繰延税金負債	20,622	23,384
再評価に係る繰延税金負債	265	265
役員退職慰労引当金	205	233
商品券等回収引当金	3,183	3,347
退職給付に係る負債	20,463	20,511
長期未払金	268	574
リース債務	7,535	7,871
長期預り保証金	12,103	11,647
資産除去債務	2,576	2,657
その他	2,524	2,403
固定負債合計	187,228	206,160
負債合計	344,454	389,692
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	92,783	92,745
利益剰余金	115,820	125,638
自己株式	△3,387	△3,261
株主資本合計	223,013	232,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,333	34,810
繰延ヘッジ損益	185	2
土地再評価差額金	125	125
為替換算調整勘定	182	△1,214
退職給付に係る調整累計額	△2,285	△2,013
その他の包括利益累計額合計	28,541	31,710
新株予約権	1,028	939
非支配株主持分	3	3
純資産合計	252,587	265,572
負債純資産合計	597,041	655,265

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	690,231	680,598
売上原価	489,148	481,626
売上総利益	201,082	198,971
販売費及び一般管理費	182,637	181,836
営業利益	18,444	17,135
営業外収益		
受取利息	69	62
受取配当金	1,116	943
諸債務整理益	1,032	961
その他	965	541
営業外収益合計	3,183	2,508
営業外費用		
支払利息	938	814
商品券等回収引当金繰入額	919	766
為替予約評価損	-	256
その他	1,039	1,171
営業外費用合計	2,897	3,009
経常利益	18,730	16,634
特別利益		
固定資産売却益	-	4,291
店舗等閉鎖損失引当金戻入額	464	252
投資有価証券売却益	8,496	-
特別利益合計	8,961	4,544
特別損失		
店舗等閉鎖損失	1,142	1,990
減損損失	1,667	1,186
固定資産除却損	416	785
進路設計支援費用	92	-
特別損失合計	3,319	3,962
税金等調整前四半期純利益	24,373	17,215
法人税、住民税及び事業税	6,981	4,176
法人税等調整額	2,458	△1,406
法人税等合計	9,439	2,769
四半期純利益	14,933	14,446
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,933	14,446

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	14,933	14,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,833	4,477
繰延ヘッジ損益	△7	34
為替換算調整勘定	15	105
退職給付に係る調整額	304	271
持分法適用会社に対する持分相当額	△8	△1,719
その他の包括利益合計	△2,529	3,169
四半期包括利益	12,404	17,615
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,404	17,615
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	イズミヤ 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	322,549	89,446	244,397	33,837	690,231	—	690,231
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	350	4,067	157	17,929	22,505	△22,505	—
計	322,900	93,513	244,555	51,766	712,736	△22,505	690,231
セグメント利益	12,240	1,731	4,008	3,375	21,355	△2,911	18,444

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,911百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「イズミヤ事業」セグメントにおいては、イズミヤ(株)他について、時価の下落や店舗の閉鎖決定等に伴い、当第3四半期連結累計期間に1,306百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失について、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

「その他事業」セグメントにおいては、(株)阪急キッチンエール関西他について、競合環境の激化等に伴い、当第3四半期連結累計期間に641百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用した結果、第1四半期連結会計期間の期首において、「その他事業」セグメントにおけるのれんが517百万円減少しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	317,342	315,714	7,235	40,305	680,598	—	680,598
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	391	4,280	12,381	19,188	36,241	△36,241	—
計	317,733	319,995	19,617	59,494	716,840	△36,241	680,598
セグメント利益	11,727	4,027	3,504	2,617	21,877	△4,741	17,135

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,741百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「スーパーマーケット事業」、「イズミヤ事業」、「その他事業」の4区分から、「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」、「その他事業」の4区分に変更しております。

この変更は平成28年度に実施するグループ再編に伴うものであり、従来の「スーパーマーケット事業」と「イズミヤ事業」の一部の会社を新たに「食品事業」として再編したほか、「不動産事業」を新設したものです。

主な変更の内容は、以下の通りです。

- ・「食品事業」については、平成28年4月1日付で設立した食品事業を統括する中間持株会社(㈱エイチ・ツー・オー 食品グループ)、従来の「スーパーマーケット事業」の各社、従来「イズミヤ事業」に含めていたイズミヤ㈱、㈱カナートなどを移管しました。

その後、平成28年7月1日付で、イズミヤ㈱(以下、旧イズミヤ)は、新設分割により小売事業を承継するイズミヤ㈱(以下、新イズミヤ)を設立し、新イズミヤを「食品事業」に移管しております。旧イズミヤは、㈱エイチ・ツー・オー アセットマネジメント(以下、H2Oアセット)へと商号変更し、「不動産事業」に移管しております。

- ・「不動産事業」については、従来の「その他事業」の一部の会社(㈱阪急商業開発など)、「イズミヤ事業」の一部の会社(㈱カンソーなど)を移管しました。

また、第2四半期連結会計期間より、「食品事業」よりH2Oアセットを移管しております。なお、第1四半期連結会計期間における旧イズミヤの不動産事業に相当する売上高及び利益又は損失は、「食品事業」に含まれております。

- ・「その他事業」に、従来の「イズミヤ事業」の一部の会社(イズミヤカード㈱など)を移管しました。

なお、前第3四半期連結累計期間では、不動産事業に相当する売上高及び利益又は損失の金額を区分できないことから、変更後の報告セグメント区分により前第3四半期連結累計期間の情報を作成することは実務上困難であります。よって当第3四半期連結累計期間の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報を、変更前の報告セグメント区分により表示すると次のようになります。

また、平成28年10月1日付で、従来「スーパーマーケット事業」であった㈱阪急デリカは、従来「イズミヤ事業」であった㈱デリカ・アイフーズを吸収合併し、㈱阪急デリカアイへと商号変更いたしました。当第3四半期連結会計期間における㈱阪急デリカアイの売上高及び利益又は損失の金額については、得意先別売上高及び生産実績に基づき、「スーパーマーケット事業」「イズミヤ事業」それぞれに相当する概算額を算出の上、両報告セグメントに区分して表示しております。

(変更前の報告セグメント区分による情報)

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	イズミヤ 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	317,342	94,526	232,242	36,486	680,598	—	680,598
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	391	4,433	1,303	18,730	24,858	△24,858	—
計	317,733	98,959	233,546	55,217	705,457	△24,858	680,598
セグメント利益	11,727	1,439	5,076	3,163	21,407	△4,272	17,135

- (注) 1. セグメント利益の調整額△4,272百万円は、セグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいては、(株)阪急阪神百貨店・堺 北花田阪急の営業終了決定に伴い、当第3四半期連結累計期間に原状回復費用相当額として780百万円の減損損失を計上しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。また、阪神梅田本店について、建て替え工事期間中のキャッシュ・フローによる固定資産簿価の回収可能性を判断した結果、1,089百万円の減損損失を計上しております。

「食品事業」セグメントにおいては、イズミヤ(株)他について、店舗の閉鎖等に伴い、当第3四半期連結累計期間に990百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失966百万円について、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) (株)阪急阪神百貨店の業績について

①経営成績

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
売上高	317,247	98.4	△ 5,021
売上総利益 (売上総利益率)	78,321 (24.69)	98.1 —	△ 1,521 △0.09ポイント
その他の営業収入	486	77.0	△ 145
販売費及び一般管理費 (販管费率)	67,185 (21.18)	98.8 —	△ 840 +0.07ポイント
営業利益 (営業利益率)	11,621 (3.66)	93.4 —	△ 826 △0.20ポイント

②店別売上高

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
阪急本店(注)1	163,298	99.8	△ 295
阪神梅田本店	41,651	94.1	△ 2,606
博多阪急	32,477	100.9	288
阪急メンズ東京	10,290	95.7	△ 460
その他の支店	69,530	97.3	△ 1,946
支店計	112,297	98.1	△ 2,119
合計	317,247	98.4	△ 5,021

(注)1 阪急メンズ大阪を含む

③全店商品別売上高

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
紳士服・洋品	27,819	97.3	△ 768
婦人服・洋品	48,550	94.3	△ 2,907
子供服・洋品	7,561	95.9	△ 319
その他の衣料品	9,227	94.4	△ 546
衣料品	93,159	95.4	△ 4,542
身の回り品	57,044	97.8	△ 1,309
家庭用品	9,946	100.8	+ 77
食料品	98,840	99.7	△ 255
食堂・喫茶	6,853	97.6	△ 171
雑貨	48,873	102.6	+ 1,243
サービス	1,371	94.9	△ 73
その他	1,158	100.8	+ 9
合計	317,247	98.4	△ 5,021

(2) イズミヤ(株)の業績について

①経営成績

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
売上高	212,026	96.5	△ 7,794
売上総利益 (売上総利益率)	63,970 (30.17)	98.0 —	△ 1,293 +0.48ポイント
その他の営業収入	—	—	—
販売費及び一般管理費 (販管費率)	62,117 (29.30)	98.7 —	△ 819 +0.67ポイント
営業利益 (営業利益率)	1,852 (0.87)	79.6 —	△ 473 △0.18ポイント

※2016年7月1日に、従来のイズミヤ(株)を小売事業会社と不動産事業会社((株)エイチ・ツー・オー アセットマネジメント)に再編分割

(参考) (株)エイチ・ツー・オー アセットマネジメント

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
営業利益	2,040	—	+ 2,040

※2016年7月1日以降の実績

②店舗売上高

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
全店	191,515	96.0	△ 7,883
既存店	176,776	97.0	△ 5,531

③商品別売上高

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
食料品	129,021	98.1	△ 2,523
衣料品	25,270	92.2	△ 2,127
住居関連品	34,263	93.1	△ 2,525
業種計	188,555	96.3	△ 7,176

(3) (株)阪急オアシスの業績について

①経営成績

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
売上高	87,432	104.9	+ 4,047
売上総利益 (売上総利益率)	22,477 (25.71)	114.6 —	+ 2,861 +2.18ポイント
その他の営業収入	4,704	111.7	+ 492
販売費及び一般管理費 (販管費率)	26,076 (29.83)	115.6 —	+ 3,515 +2.77ポイント
営業利益 (営業利益率)	1,104 (1.26)	87.2 —	△ 162 △0.26ポイント

②店舗売上高

(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比	増減
全店	87,432	104.9	+ 4,047
既存店	79,740	99.5	△ 393